

# らんま新聞

<文責>

武者小路光磨

<発行>

らんま制作舎

## 悲願の舞台公演再開へ

### 「コロナにも負けず、風邪にも負けず」

### 新しい舞台製作への挑戦！

2020年2月東京officeシアターにて贈人(ぎふと)氏をお迎えして第56回本公演「弾丸黒子」が上演された。その時からじわりじわりとコロナ忍び寄っていたが、なんとかスタッフ全員マスクを装着し公演を打つことができた。しかし、東京公演終演後から自粛ムードが高まり、その後、社会全体でイベントや舞台などがすべて中止となった。

それから約9か月の時を経て、本公演が始まる。6月末より公演に向けて少しずつ動き出した。コロナにより自粛期間中はオンラインにてリモート会議進行。このリモート会議と言うのが

なかなか面白い。仕事や遠方でなかなか参加が難しい仲間もオンラインなら参加することが可能なのである。そのため、カナダから支部長のモリコや東京の仲間たちも参加することができた。

ただ、電波状況によってはすごい表情で止まることがある。さて、どんな表情だったかは皆さんの想像に任せよう。

リモートでの読み合わせや会議を重ね、ついに9月から対面での稽古へ。コロナによりオンラインによる映像配信サービスが増加する中、演劇界でも配信により家でも舞台を楽しむこ

とができるようになった。しかし、やはり生の舞台の良さは観た人にしかわからない。会いたくても、会えない苦しみや寂しさは今年世界中の人が感じた。だからこそ、今回こうして直接会えることに感謝して……。

新しい生活様式が始まり、感染症対策を講じながら劇団員全員でこれからも新たな挑戦を続けていく。



〇〇が足らない？

制作担当の西藤茅花が「余分に100枚くらい作ったのに全然足りないのよね」とボソツと呟いた。西藤が言っ

ているこの「足りない」とは修正用のシールのこと。いつもDM作業は稽古場で一齐に行うのだが今回は各々自宅で作業を行っていた。そのため、必要な物品を持って帰っていた。

この西藤の呟きに反応したのは小野圭子とMACCO。

小野 「誰でなんでしょうね、シール持って帰っちゃうの」

MACCO 「ちゃんと余った分は返さないといけないわよね」

なんて何気なく2人で話している。そして稽古後に片づけをしながら……

「あった……」と小さい声が聞こえた。

振り返ると2人とも満面の笑みで「靴の底にありましたね。犯人は私たちでした。へっ……」

さっきまで自分はちゃんとやっているから大丈夫だと言わんばかりだったが、自分が犯人になるとそんなことは忘れて笑顔なのだ。マイペースと言うか、何というか……。

そういえば2人も確かB型だったはず。すべてのB型の方には申し訳ないが劇団一番のマイペースコンビだったことをふと思い出した西藤であった。トホホ……

## 浅井唯香のよう〜ん?

衣装合わせの後の通し稽古。本番さながらの髪型メイクに、衣装を着ての最初の通しはいくつ本番を経験してもやはり緊張が付きまとうもの。

その日、通し稽古を前にしたまーぼ春雨の表情にも例に漏れず緊張の色が見えた。その前をふと通りかかった浅井唯香。

いきなり春雨のおでこを・・・  
「とう〜ん!」とつついて去っていった!

春雨は突然の出来事にすぐに状況が把握できず、驚いてきよんととしていた。その後すぐにっこり笑顔に。

通し稽古でも、緊張がほぐれたのか気持ちの乗ったいい演技を見せてくれた。

浅井の通り過ぎがぎまの楽しいイタズラ。若手の凝り固まった緊張を見抜いて行われるこのイタズラに救われている若手は少ない。稽古の合間の微笑ましい一場面であった。



## 場面転換で大苦戦

あまぐりの声か

稽古場に響く!

「後藤さんダメです!」唐突にあまぐりの声が響いた。座長もその声にたじたじ。

実は今回の舞台では場面転換に劇団員全員が苦戦していた。そのため、舞台監督である、あまぐりが日頃から間違いが起きないか目を光らせていた。そのため場面転換のみの稽古で間違えるとすかさず・・・

「違います!もつと前です。」

と声が飛んでくる。普段大人しくて気づいたら誰かにくっ付いているイメージだったあまぐりが今では稽古場ではドンである。ついていきますあまぐり先輩!

もうすべー100キロ!

江戸川さんや100%

成長が止まらな〜い!〜!

「あれ?さんやまた大きくなった?」とある日の稽古後に座長が気付いた。江戸川さんが実践している「過食ダイエット」がある。これは食べてエネ

ルギーを燃やしていこうとするもの。

日曜稽古の昼食は各自近くのコンビニで調達してくる。この時に大量に食品を購入し「買いすぎた」と言いつつ食べ切ってしまう姿が恒例になっていたのだが、コロナの影響で稽古時間の短縮により、なかなか見られなくなっていた。

さらにソーシャルディスタンスと言うことで各自ヨガマット1枚分スペースを確保。そのため、全員が正面から稽古を見学できず、特に体の大きな江戸川は稽古場の隅に追いやられている。しかし、隅にいるはずなのに存在感がすごい。なぜだ???

「自粛期間中にさらに大きくなりました。もう少しで100キロいっちゃうかな」と笑顔で江戸川が答える。その場にいた全員が「あぁ」と納得の声漏れる。

一体どこまで大きくなるつもりなんだ。江戸川の成長はまだまだ止まらない。い。

ハイハイハイハイ

衣装を着ての最初の通し稽古の後によくあることなのだが、  
「履いてきた靴下がありません!」

「私も!」  
「落ちてこれ誰の服?」

服の紛失や謎の落し物の頻発。どんなに気をつけても必ず何かが起こる。その日も帰り際はバニックに。そんな中...

「稽古着のTシャツがありません!」と叫んだのは何と洞口はるか。しっかりと以前公演にて小道具チーフを務めた際は小道具の番人として君臨していた彼女のまさかのミスに、一同騒然。

女性陣総出で一緒に稽古場をひっくり返して搜索する中、稽古着が見つかったのは・・・自分の衣装を入れる袋の中。灯台もと暗し。

「ありました・・・」と照れたように恥ずかしそうに言う洞口と、笑う一同。

「これは新聞行きだよ!」と座長が申されたので、すぐ新聞のネタ採用決定。ちなみに、さり気なく靴下をなくして右往左往していたまーぼ春雨も無事なくし物を発見した模様。

自分の持ち物はしっかり整理するのだよ若者たち・・・

